

## 1 主題名

誠実に生きる 「A-(2) 正直, 誠実」

## 2 ねらいと教材

### (1) ねらい

自己の過ちに気付き、改めていく素直さとともに、誠実な生き方を大切にする道徳的心情を育てる。

### (2) 資料名

「豆電球」 (令和元年度長期研修員自作資料)

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

「誠実」とは、偽りのない心で真剣に人や物に対応することと捉える。児童が、健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。うそを言ったり、ごまかしたりすれば、信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。高学年の段階においては、自分自身に対する誠実さがより一層求められる。過ちや失敗は誰にでも起こりうることであるが、素直に認め、誠実に対応することが自己の向上や、他人との信頼関係にも結びつくと考える。

### (2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、学校生活のさまざまな場面で下級生の模範となるよう求められ、より一層、自分の意見を適切に述べたり人の意見を受け入れたりする機会が多くなり、高学年としての自覚が芽生え始めてきた。そのような中で、交友関係が広がり、仲間同士のふれあいを大切にする雰囲気がある。一方で、自分が他人よりも良く見られたいが故にうそをついたり、不利な立場に立たされることを回避しようとして、ごまかしたりする姿も見受けられる。例えば、人間関係のトラブルにおいて自分の非を認めなかったり、宿題に取り組めなかったことを他人のせいにしてごまかしたりする場面である。うそをつくことによって、周りの信頼だけでなく、誇りや自信を失ってしまうことに気付いていない。そこで、自己の過ちに気付き、改めていく素直さとともに、誠実な生き方を大切にする心情を育てたい。

### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本資料は、理科の実験で使う豆電球が、何者かによっていたずらされ、「私がやりました」というその報告をしてしまう主人公と、そのうそに気付き、担任が主人公に優しく諭すという内容である。資料の前半では、やっていないことを「やりました」と書いた主人公の行動を取り上げ、その行動は誠実であると言えるのかを考えさせる。また、その後の主人公の行動を予想させた後、資料の後半を範読する。中心発問では、先生の前で流した涙に込められた、ゆうこの思いを考えさせることを通して、ねらいに迫っていきたい。また、展開での話合いを通して、「誠実な心」とはどのような心かを問い、黒板を開放して児童に考えを書かせることで、全員で共有し、道徳的価値への新たな気づきを期待したい。

4 学習指導過程

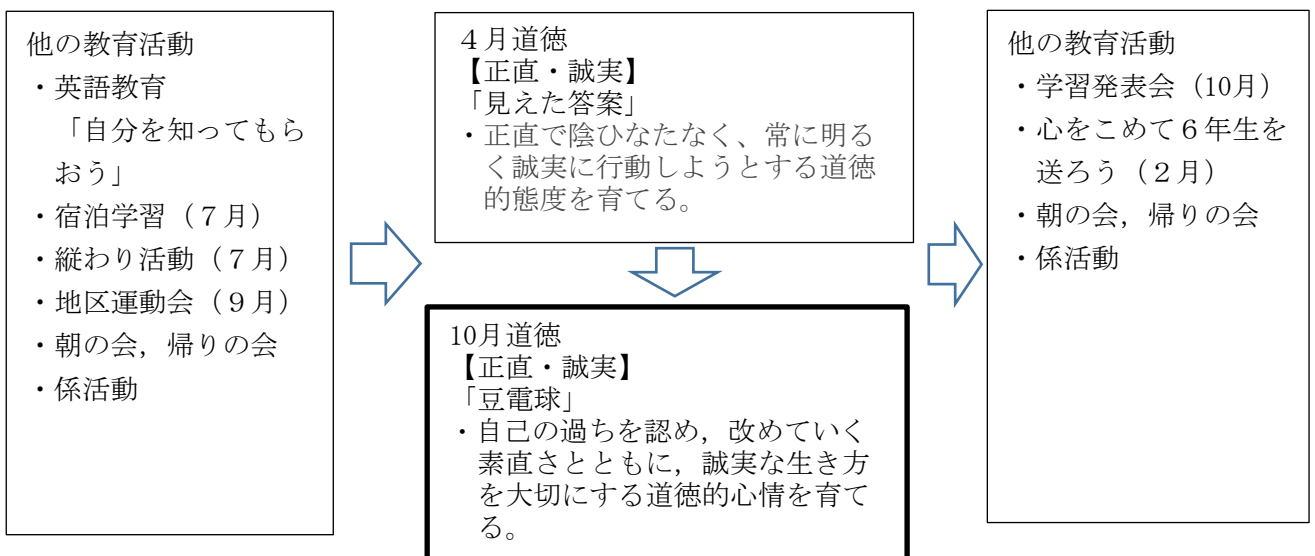
	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>○主な発問（◎中心発問）・予想される反応</p>	<p style="text-align: center;">・指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「誠実な心」の大切さについて考えよう。</p> </div> <p>○「誠実」とは、どのような意味ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直という意味だと思います。</li> <li>・まじめという意味だと思います。</li> <li>・分かりません。</li> <li>・聞いたことがありません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誠実」についての考えを授業を通して深めさせるため、児童の意見のみを取り上げる。</li> <li>・全く意見が出ない場合は「正直」を例に出す。</li> </ul>
<p>展開 前段 17分</p>	<p>2 資料の前半を読み、ゆうこの行動について考える。</p> <p>○ ゆうこはどのようなうそをつきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やってないのに「わたしがやりました」と書いてきました。</li> <li>○ なぜ、そのようなうそをついたのでしょうか。</li> <li>・自分も周りの人も早く帰りたいからです。</li> <li>・疑われているたかしかばったからです。</li> <li>○ あなたは、ゆうこの行動をどのように思いますか。</li> <li>・悪いことです。</li> <li>・うそつきです。</li> <li>・自分もみんなも早く帰りたいから気持ちも分かります。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>先生の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信用していたのに残念だと思っています。</li> <li>・ショックだと思います。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>クラスみんなの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残念だと思います。</li> <li>・どうしてうそをついてしまったのでしょうか。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>自分の心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後悔しました。</li> <li>・もやもやします。 ・どきどきします。</li> </ul> </div> <p>○ 教室に向かったゆうこは、どのような気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もやもやしています。</li> <li>・正直に言ったほうがよいという気持ちです。</li> <li>・何を言ったらよいだろうと迷っています。</li> <li>・何とごまかそうと考えています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が資料の内容を捉えやすくするため、登場人物の気持ちを考えながら範読を聞くことを伝える。</li> <li>・場面を想起させるために、場面絵①を提示する。</li> <li>・ゆうこのどのような行動が間違っていたのかを児童から率直な意見を引き出すため、資料の前半のみを範読する。</li> <li>・様々な人達の立場からゆうこの行動について考えさせるために、問い返しをする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対してうそをついたのですか。</li> <li>・ゆうこがうそをついたと知ったら先生やクラスみんなはどのような気持ちになりますか。</li> <li>・この中に、本当にいたずらをした人がいますよね。どのように思っていたのでしょうか。</li> <li>・もし、友達がそのようなうそを書いたことを知ったら、どのように思いますか。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたしがやりました」と書いたときからのゆうこの気持ちの変化に気付かせる。</li> </ul>

<p>展開後段 18分</p>	<p>3 資料の後半を読み、「誠実な心」の大切さについて考える。</p> <p>◎ ゆうこの涙には、どのような気持ちがこめられていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後悔の気持ちです。</li> <li>・信じてくれていた先生に申し訳ないという気持ちです。</li> <li>・自分に恥ずかしいという気持ちです。</li> </ul> <p>○ 「誠実な心」とは、どのような心だと思いますか。自分の言葉で書いてみましょう。 (付箋に自分の考えを書き、黒板に貼る)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直な心      ・自分にうそをつかない心</li> <li>・勇気ある心   ・明るい心   ・信頼される心</li> <li>・まっすぐな心   ・反省する心</li> <li>・自分に負けない心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面を想像させるために、場面絵②を提示する。</li> <li>・ゆうこの行動に対する後悔や自責の念に共感させると共に、相手の信頼を失ってしまうことに気付かせるために、涙にこめられた気持ちを考えさせる。</li> <li>・意図的指名するために、机間指導する。</li> <li>・一人一人が考えた「誠実な心」についての新たな気づきを共有させるために、黒板を開放する。</li> </ul>
<p>終末 5分</p>	<p>4 自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>○ 授業を通して分かったこと、いいなと感じたこと、これからの自分に生かしていきたいことを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。</li> <li>・「何が分かったか(知)、いいなと感じたこと(情)、これからのこと(意)」の視点を与えることを通して、児童の評価につながる。</li> </ul>

**【評価】**

誠実に生きることについて、自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

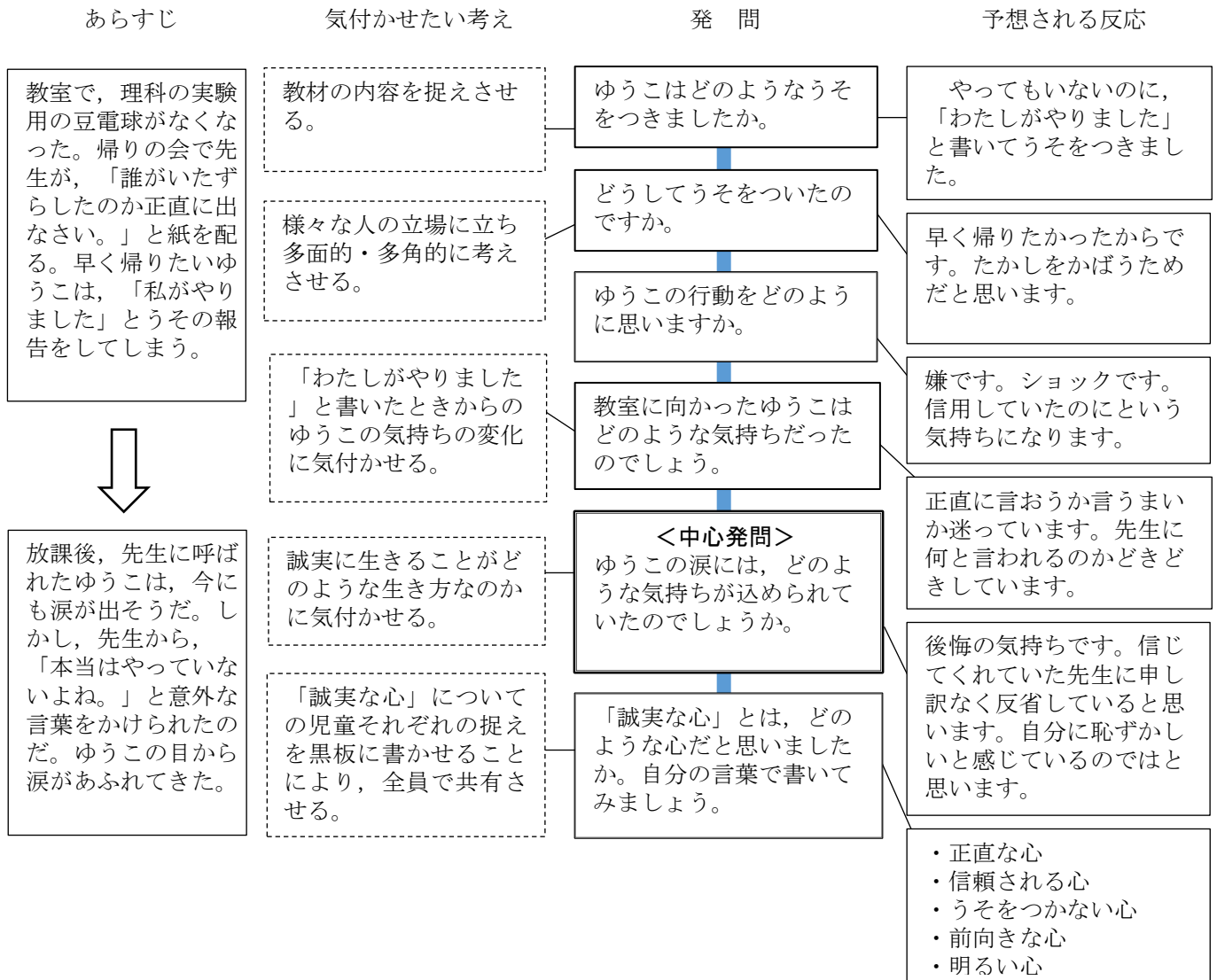
**5 他の教育活動との関連**



## 6 補充・深化・統合の視点【深化・統合】

本時は、これまでの諸活動での体験を生かしたり、振り返ったりしながら、「誠実な心」についての大切さや自己との関わりについて一層考えを深める（深化）。また、内容項目「礼儀」「よりよく生きる喜び」の大切さに触れながら、児童の新たな感じ方や考え方を生み出す（統合）授業である。

## 7 教材分析・発問構成



## 8 準備物

教師：自作資料、辞書、場面絵、児童用ワークシート、付箋紙大

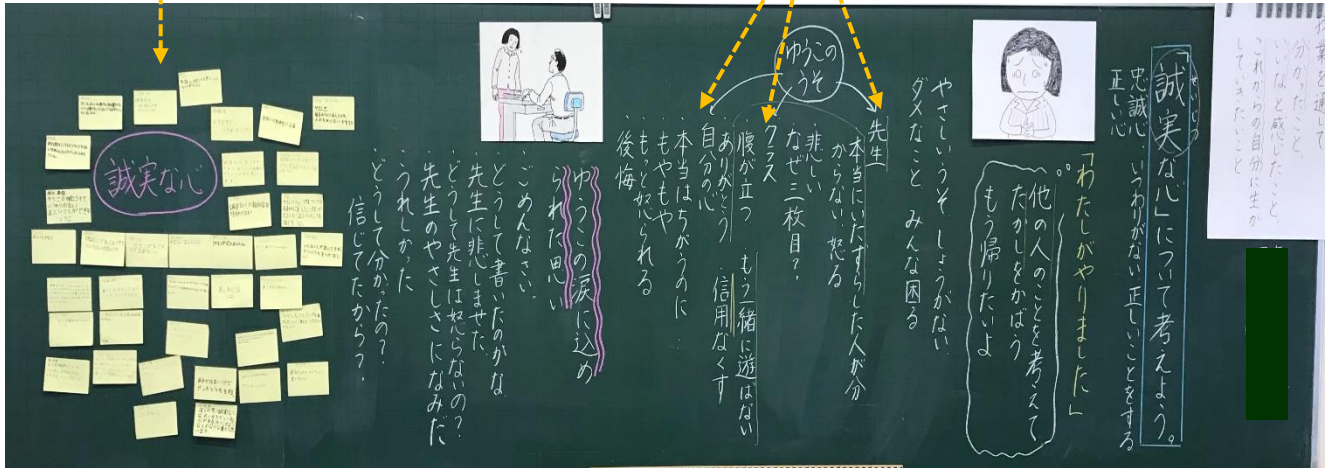
生徒：ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

「誠実な心とはどのような心か」について新たな気づきを共有させるために、一人一人が書いた付箋を黒板に貼らせた。

様々な人の立場からゆうこのうそについて考えられるよう、問い返しを行った場面。



(1) 導入

児童にねらいとする道徳的価値に方向付けるため、「誠実」についてのイメージを持たせた

「誠実」とはどのような意味か、またはどのようなイメージを持っているかを問い、ねらいとする道徳的価値について方向付けをした。

- 「忠誠心」「いつわりのない」「正しい」「正直」という言葉が児童から挙がったが、道徳的価値の捉えとは少しかけ離れた児童の意見を黒板に書いて良いか迷った。教師が辞書にある言葉の定義を伝えることも一つの方法だったのかも知れない。

(2) 展開

主人公の行動について、多面的・多角的に考えさせるために、問い返しをした

主人公のついたうそは、「優しいうそ」という肯定的な捉え方をする児童が数名いた。そこで、「主人公がうそをついたことを、先生やクラスの友達が知ったらどのような気持ちになるか。」を考えさせた。

- 問い返しを工夫することで、主人公のうそについていろいろな人の立場で考えさせることができた。
- 資料の分割読みをしたことで、資料の前半の主人公に自我関与し、後半の行動に興味を抱かせることができた。
- 資料の活用の仕方や発問が不十分だったため、うそをつかないことが「誠実な心」という一面的な捉え方になってしまった。

教師と児童の対話

T: ゆうこは誰にうそをついたのですか。

C: 先生です。

T: もし、先生が、ゆうこがうそをついたことを知ったらどのような気持ちになりますか。

C: 本当にやった人が分からなくなるから怒ると思います。悲しい気持ちになります。

T: そうですね。他には誰にうそをついたのですか。

C: クラスのみんなにうそをつきました。

T：じゃあ、クラスみんなはどう思いますか。

C：腹が立ちます。もう一緒に遊びたくないと思います。帰りの会が終わったので「ありがとう」って思うかも知れません。

T：待って下さい。この中に本当にやった人がいますよね。その人はどう思ったのでしょうか。

C：その人が「ありがとう」って思ったのではないのでしょうか。

T：他にはいますか。

C：自分の心にうそをつきました。

T：自分の心にうそをつくってどのようなことですか。

C：本当は自分がやったのではないのに、うそをついてしまったということです。

T：自分の心にうそをついて、ゆうこはどのような気持ちになったのでしょうか。

C：もやもやしていると思います。後悔もしていると思います。

T：そうですね。それでは話の続きです。

C：え～、どうなったのかなあ。説教されるのかな。いいわけするのかなあ。

(児童は資料の話の続きに興味を持ち、友達と想像して盛り上がっていた。資料を配布すると、教室がシーンとなり、続きを読み始めた。)

### 一人一人が考えた「誠実な心」についての新たな気づきを共有させるために、黒板を開放した

展開での話し合いを通して、「誠実な心」とは、どのような心かを問い、黒板を開放して児童に考えを書かせることで、全員で共有し、道徳的価値への新たな気づきを期待した。

○ 一人一人に付箋を配り、一斉に書いて貼らせることで、時間短縮になった。

● 字が小さく、全員には見づらい。終末に書く振り返りの記述になっていた児童も多かった。

### 中心発問で、主人公の涙に込められた思いについて発問した

○ 「後悔」「先生の優しさ」「信じてくれていたうれしさ」など、児童が主人公に共感していた。

● 中心発問の前に、うそをついた主人公が、なぜ、先生の待つ教室へ向かったのかを問うことで、「過ちや失敗は誰にでも起こりうることであるが、素直に認め、誠実に対応する」（ねらいや指導内容についての教師の捉え）という思考に発展させることができたのではないかと思う。

### (3) 終末

### 自己の生き方についての考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「どのようなことが分かったか」、「いいなと思ったこと」、「これからの自分に生かしていきたいこと」の視点で振り返らせた。

### 児童の感想

- ・自分がやさしさだと思って何かをしたり、正しいと思ってやったりしても、結局、後から後悔することもあるから、考えて行動するとよいと思いました。
- ・ぼくは、正しい判断をし、自分の最善を尽くして行動することを「誠実な心」だと思いました。
- ・自分の知っている人だけでなく、知らない人にも優しく、うそのない親切な心をみせていけるようにがんばりたいです。
- ・今日の授業で、優しさも大事だけど正しいことをすることの方が大切で、自分のためにもなると思いました。
- ・分かったことは、誠実な心にはいろいろな意味があるということ。これからは生かしていきたいことは、うそをつかないで正しいことをすることや、まっすぐに自分でしたいことをやるということです。
- ・ゆうこさんは、本当は正しい心を持っているので、先生に正直に言うことで正しい人になります。これからも正しい生活を送ってほしいです。